



▲県政報告会には約160人が集まった。囲みは堤県議

「大和心を次世代に伝えていく」 堤泰之県議 県政報告会に160人

自民党の堤泰之県議(2期・熊本市1区)は11月15日、熊本市中央区の県民交流館パレアで県政報告会を開き、約160人が集まった。住永幸三郎前益城町長、村崎秀元富合町長、県宅建政治連盟の緒方義和会長、県薬剤師連盟の江上祥一氏なども出席した。

後援会の榎木主税会長が開会あいさつに立ち、木原稔官房長官夫人の由紀子さん、日隈忍熊本市議(2期・東区)、三島良之・前市議代理の府内久子さん、県ボーリング・ダンス連盟の石原功二会長がそれぞれ堤県議を激励した。

続いて木原官房長官のビデオメッセージが放映された。木原官房長官は「本日は講師としてお声がけいただいたにも関わらず、公務のため出席できず申し訳ない」とあいさつし、現在取り組んでいる官房長官の職務について説明。長射程ミサイルの健軍駐屯地への配備について触れ、「我が国全体の防衛体制を強化することにつながる。もつとも、地域の皆さまのご理解とご協力なくして進めることはできない。政府として、防衛省と連携しながら丁寧な説明と、環境・安全対策を徹底していく」と語った。

県政報告に立った堤県議は冒頭、「今日は木原先生にミサイル配備を始めとした自衛隊の役割についてお話いただきました」と語った。自身の議会活動や9月定例会の自身の一般質問を振り返りながら、「まずはTSMCの進出を成功させ、その果実を県民の皆さまに分配していくこと。その上で、小さな子どもたちや恵まれない境遇の方々を支えていく取り組みが必要だ」と訴えた。

4年間で最多の17市町村で実施

2025年の首長選 現職が敗れる波乱も

身が持つている大和心を次の世代に伝えていく。そのためにも、引き続きよろしくお願い申し上げる」と力を込めた。

その後、参加者との質疑応答の時間が設けられ、県内の道路インフラ整備や渋滞問題、外国人の土地購入などについて意見交換を行った。



▲会場では木原官房長官のビデオメッセージも放映された

「世界の中に日本ほど平和で自由な国はないと思つてゐる。後世の世代のために命懸けで戦つて下さつた方々の礎の上にあるということを肝に据え、これからも活動していきたい」と今後の意気込みを

11月16日投票の産山村長選が終了し、2025年に予定されていた首長選は幕を閉じた。県内自治体では25年に、8市7町2村の17市町村で首長選が実施された。実施される首長選としては4年間で最多。現職が出馬した13市町村のうち現職が再選（無投票含む）したのは10自治体で現職の強さが際立つ一方、阿蘇市、南阿蘇村、八代市では現職が敗れる波乱も起きた。

25年は年明け早々から首長選ラッシュが続き、1月14日に告示された芦北町長選と玉東町長選を皮切りに、2月までに、荒尾市、山鹿市、大津町、多良木町、天草市、宇城市、阿蘇市、南阿蘇村の各首長選が続いた。

4月には菊池市、長洲町、6月には津奈木町、8月には八代市、10月には玉名市と氷川町、11月は産山村で現職の任期満了を迎えた。

このうち、無投票となったのは、荒尾市、山鹿市、天草市、津奈木町、玉名市の5市町。いずれも現職が再選。任期満了を迎えた17市町村のうち3割近い、自治体で無投票となった。山鹿市と玉名市では、2005年の合併以降、はじめ